造山古墳発掘調査現場公開資料

岡山市教育委員会
日時：令和４年 11 月 27 日（日）
場所：岡山市北区新庄下（発掘現場）

〇はじめに

岡山市教育委員会では、造山古墳の範囲確認調査を 10 月中旬より進めており、この度、確認された遺構を一般に公開するはこびとなりました。今回は後円部墳頂部を中心に城郭遺構の確認と古墳本体の残存状況の確認を目的として発掘調査を行いました。結果、城郭遺構として、複数の柱穴跡や土塁、曲輪などがみつかっています。古墳に伴う遺構では、墳丘斜面の葺石の他、中心付近で埋葬施設等の遺構に関わる可能性がある安山岩が出土しております。

〇造山古墳の概要

造山古墳は全国で４番目の規模を誇る前方後円墳で、５世紀前半の築造が考えられます。墳長 350m、三段築成でくびれ部には造り出しが付属します。主たる埋葬施設や副葬品は不明ですが、前方部の頂上には阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が存在しています。これまでの調査で斜面にかかる葺石やテラスからは埴輪列などがみつかっています。また、造山古墳の周辺には現在６基の古墳が分布しており、その中でも榊山古墳の出土品や千足古墳の石室からは古墳時代中期における列島内外の地域との交流の活発さがうかがえます。

築造後は備中高松城水攻めの際に城郭として使用され、現在でも土塁や曲輪、竪堀などの遺構が確認できます。

図１　調査場所の位置

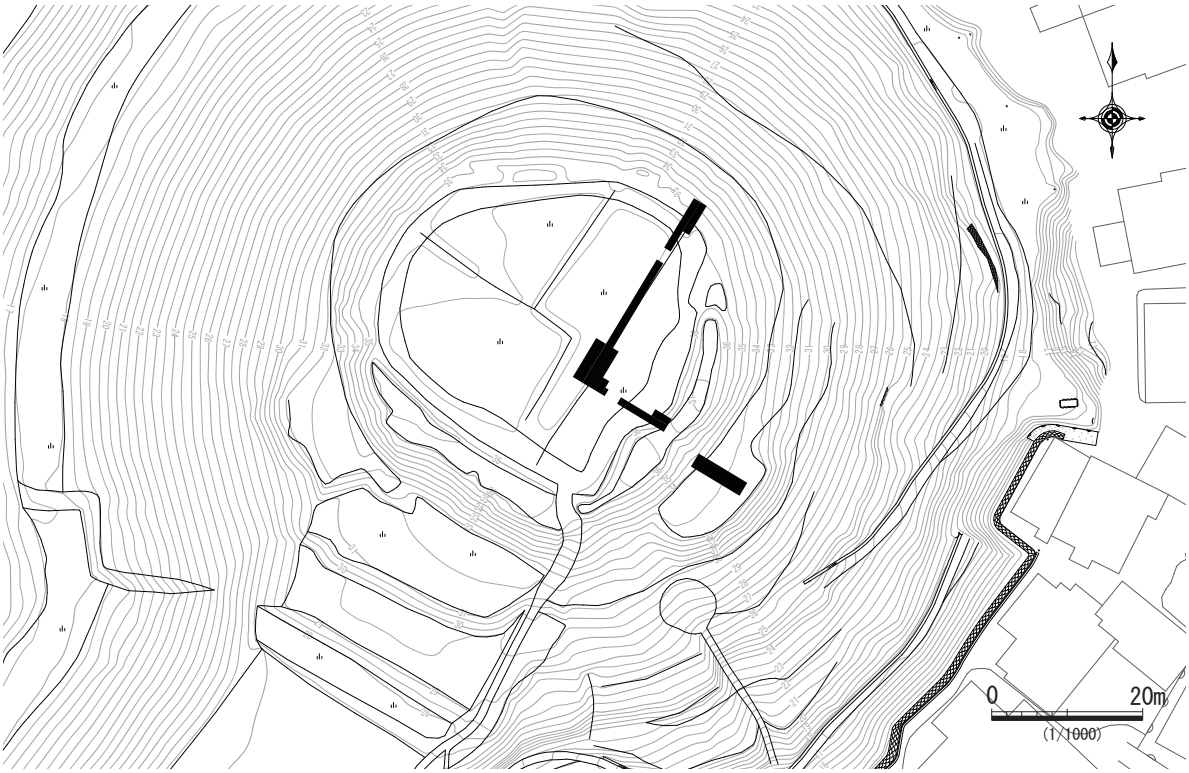


図２　令和４年度トレンチ配置

〇調査成果について

今年度の調査は造山古墳の将来的な整備に向けて、後円部墳頂部に墳丘主軸に合わせてＬ字形の調査区を設定しています。備中高松城水攻めの際に古墳をどのように使用したのか、それに伴って古墳はどう改変されたのかなど、複合的な遺構の実態を把握する目的で調査を行っています。

トレンチの中でも墳頂部中心に近い部分では備中高松城水攻めの時期と考えられる柱穴跡群がみつかっています。柱穴跡の径は数種類に分けられますが、どの柱穴跡が組み合うのかは今回の調査ではわかりませんでした。調査区内での土層の堆積状況を確認するためにＬ字方向にサブトレンチを入れたところ、地表下約 80 ㎝で板石状の石材が５枚、南北方向に並んでいることが確認できました。石材は香川県産の安山岩と考えられます。吉備では古墳の埋葬施設に香川県産の安山岩をよく使用しています。造山古墳群でも千足古墳の石室に使用されていました。第２、第６古墳でも同様の石材が確認されています。これらのことから５枚の板石は造山古墳の埋葬施設に関連するものと考えられます。しかし、今回の調査からは、もし埋葬主体に伴うとして、どの部分の石材なのかについては今後の課題として残されました。調査区内で遺物は埴輪小片や中世の皿や鉢が確認できましたが、量はとても少ないです。後述する斜面側との結果から、墳頂面の中心部分は後世に削平され、改変されていることがわかりました。

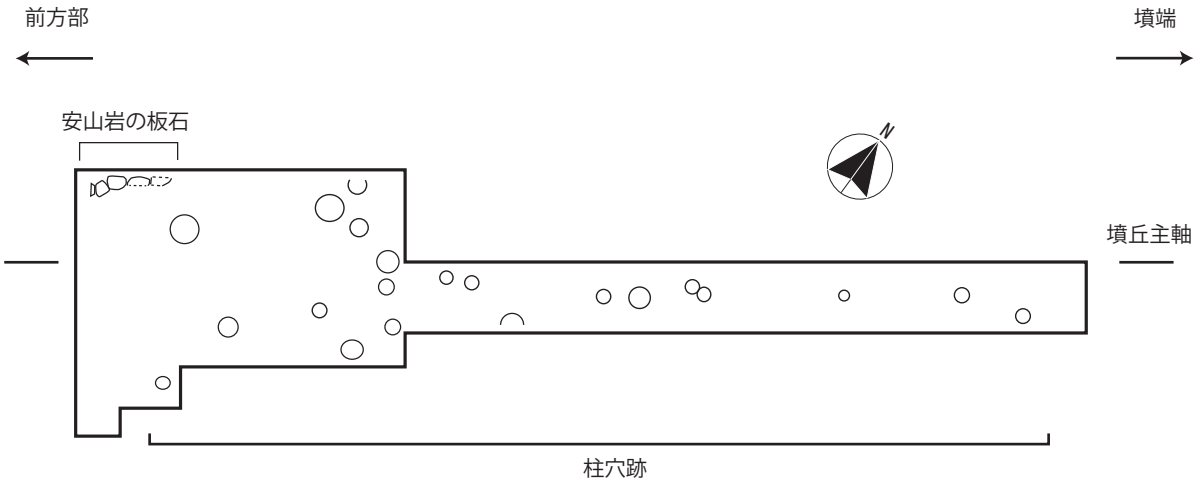
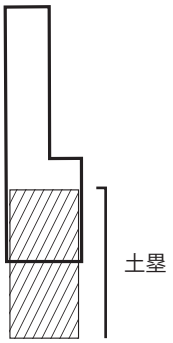


図３　中心付近の模式図



土塁は備中高松城水攻めの際に築かれたものです。現在は、東・南側のみ残存していますが、本来は墳頂部の周囲に巡っていたと思われます。東側の土塁は古墳の墳丘を削平し、改めて盛り直していました。その際に古墳の葺石を埋めるなどして転用していました。

トレンチの斜面側では、古墳に伴う葺石を確認しました。墳頂部付近での葺石の確認は初めてです。葺石は 30 ㎝程度の花崗岩や流紋岩を使用しています。各石は１段目、２段目の調査で確認したものよりも一回り程小さく、風化したものも多く混じっています。また、傾斜も従来の調査成果と比べて約 10 度緩くなっていました。葺石の上部は残存していないため墳頂本来の高さはわかりません。この調査区では、円筒・朝顔形・靫形・蓋形・家形・甲冑形？埴輪が出土しました。形象埴輪の多くは本来、墳頂部の中心部分に樹立していたと考えられます。また、10 ㎝に満たない円礫が多く出土しています。造山古墳ではこれまで、平坦面で円礫を確認していません。おそらく、後世に中心付近の土や埴輪、円礫をまとめて斜面側に向かって寄せたと考えられます。土塁の内側には浅い溝があり、斜面部の調査区周辺でも確認できることから葺石の上部には本来土塁が築かれていたと考えられます。

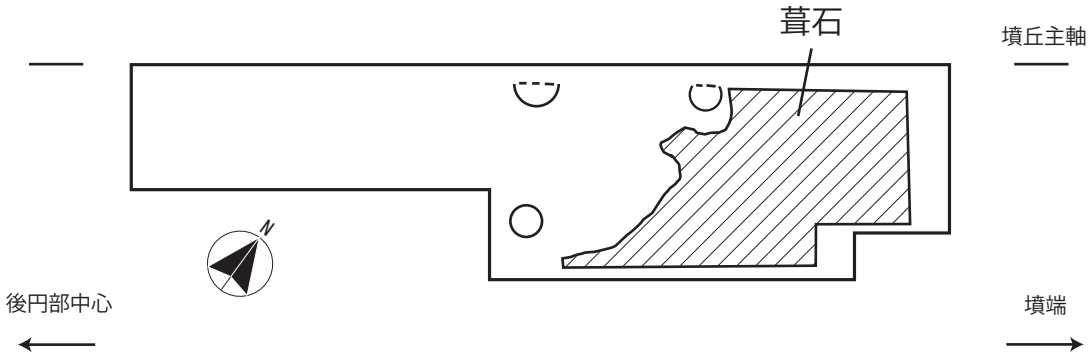
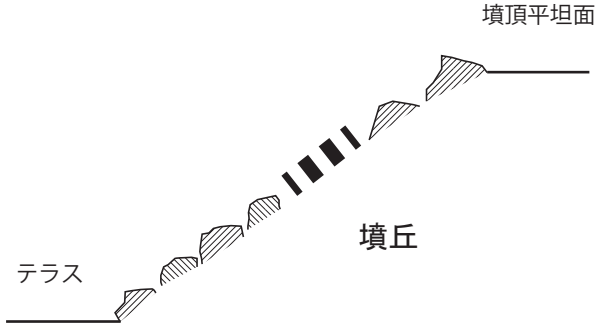


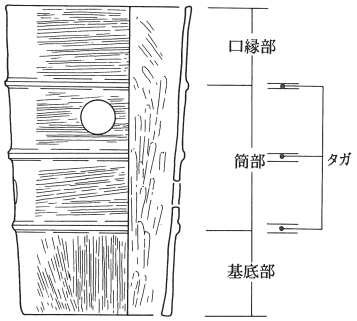
図４　斜面付近の模式図

○おわりに

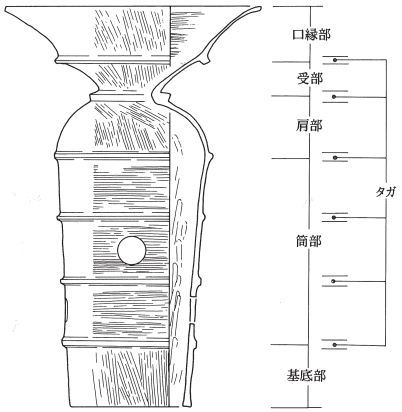
今回の調査により、造山古墳の後円部墳頂部分の様子が少しずつ明らかになりました。香川県産の安山岩を使用した施設が存在すること、そして高松城水攻めの際に墳丘をどう利用していたのか、その後も耕作地として使用されていたことなど、1600 年にわたる古墳時代から現代までの人々の営みを知ることができました。しかし、墳丘斜面が緩いことや、安山岩の板石の性格、土層の理解など多くの課題も残されました。今後も慎重に調査・検討を行い、整備に活かせればと思います。



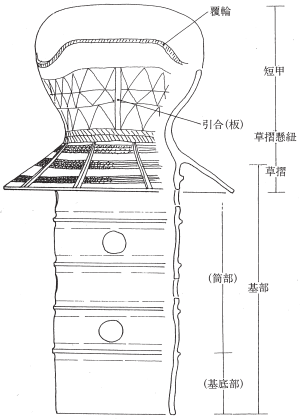
墳丘構造模式図



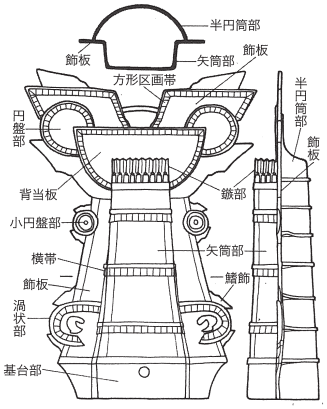
円筒埴輪



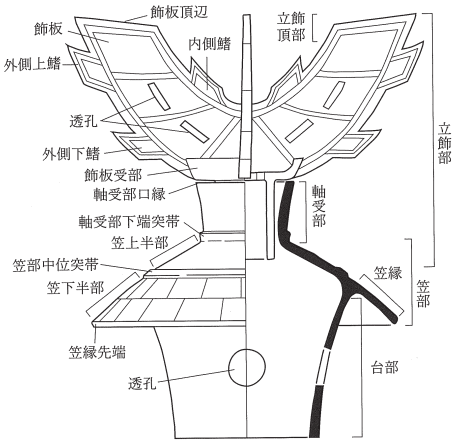
朝顔形埴輪



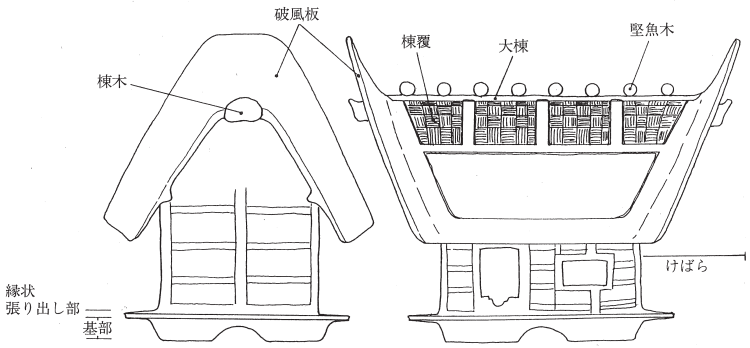
甲冑形埴輪



靫形埴輪



蓋形埴輪



家形埴輪

図出典

靫形埴輪：和田一之輔 2022「靫形埴輪」『埴輪の分類と編年』埴輪検討会

蓋形埴輪：金澤雄太 2022「蓋形埴輪」『埴輪の分類と編年』埴輪検討会